

令和 7 年度 県立石下紫峰高等学校自己評価表

目指す学校像	1 「心の教育」の充実に努め、人間としての在り方生き方の自覚を深め、豊かな人間性を育成する学校 2 心身ともに健全な活力ある人間の育成を目指し、自主的活動を推進する学校 3 多様な進路希望に対応し、一人一人が主体的な学習を通して自己の能力を伸ばし、自己実現を可能にする学校 4 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、適切な勤労観・職業観を育成し、社会の一員として活躍できる人間を育成できる学校 5 保護者・地域社会との連携を深め、社会から信頼される開かれた学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○地域社会から信頼され、地域社会に確実に貢献する人財を育成します。 ○心身ともに健全な活力ある人間の育成を目指し、自主的活動を推進します。 ○多様な進路希望に対応し、一人一人が主体的な学習を通して自己の能力を伸ばし、自己実現を可能にします。 ○実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、適切な勤労観・職業観を育成し、社会の一員として活躍できる人財を育成します。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○単位制を活かした、きめ細やかでわかりやすく楽しい授業を展開します。 ○体験学習を充実させ、人と人とのふれあいを大事にし、社会性を育み、自律した行動ができるようにします。 ○個別最適な学びと探究活動を充実させ、基礎的・基本的な学力を育みます。 ○多様な選択科目を充実させるとともに、計画的・系統的なキャリア教育により、進路目標の実現を目指します。 ○ホームルーム活動や部活動などの集団活動を通して、心身の調和のとれた発達とコミュニケーション能力を育成します。 ○より良いアクティブスクールに向けた取組を推進します。		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○本校の学習や活動に意欲的に参加し、自己の可能性を信じて前向きにこつこつと取り組む生徒。 ○他者とコミュニケーションを図り、積極的に協働しようとする生徒。 ○社会に貢献する意欲を持つ生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
1 成果 少人数・習熟度別授業、義務教育範囲の復習、外国籍生徒への日本語の補習等の取組は、基礎学力の定着に十分な効果を挙げた。 また、本校職員のきめ細かな指導とハローワークとの連携による就職指導等により就職内定率 100%を実現できた。 進学希望者へは、きめ細かな指導により、例年に遜色ない成果を挙げることができた。		基礎学力の養成	① 「ISベーシック」や各授業を通して、基礎学力の育成を行う。 ② ICT機器の活用など、多様な個性の生徒へのきめ細やかな学習指導方法の工夫・改善を図る。 ③ 授業公開の積極的实践と相互研鑽を行い、授業展開の工夫等の教授法の改善に努める。	A
		基本的生活習慣の確立と生活支援の充実	④ 生徒の日常の生活実態を把握し、家庭と連携して規則正しい生活リズムの確立を促し、基本的生活習慣の確立のための支援を充実する。 ⑤ 欠席、遅刻、早退を減らす。正しい服装・頭髪への指導を行う。交通安全指導を充実し、あいさつの励行を図る。	B

別紙様式 2 (高)

2 課題 生徒の学習意欲を更に高め、生徒一人一人の多様な進路希望の実現に向けて、ICT 機器の活用など取組の工夫が必要である。 また、体験的な教育活動を十分に活用し、生徒が主体的、積極的に活動する場を提供することで、生徒一人一人が、学校の教育活動と自己の将来をつなげて考えられるような機会の充実を図る。		⑥ いじめや問題行動等の未然防止と早期解決を図るための支援を行う。 ⑦ 好ましい人間関係づくりの指導・コミュニケーション能力の育成を行う。 ⑧ 規範意識の確立、道徳心の高揚、他者への思いやり醸成のための支援を行う。 ⑨ 個人面接等を充実して、生徒理解を深め、生活面で適切な支援を行う。 ⑩ 教員間での生徒の問題の共有と共通理解に基づく共通行動体制の確立を行う。 ⑪ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、学校と家庭との連携を図る。	
	進路指導の充実	⑫ 3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人の興味・関心・適性などに応じた「自分さがし」を援助する。 ⑬ 個人面接等を充実して、生徒理解を深め、長所や短所を把握し、進路面で適切なアドバイスを行う。 ⑭ インターンシップ等を積極的に推進し、望ましい勤労観・職業観を醸成する。また学校見学、各種ガイダンス、検定試験、必要に応じた課外等を充実する。	A
	特別活動の推進	⑮ 生徒が活力ある学校生活を送れるように、生徒会・部活動の活性化を学校全体で推進する ⑯ ホームルーム活動や部活動等の集団活動を通して、心身の発達と個性の伸張、コミュニケーション能力の育成や他者への思いやり涵養などの社会性を育成する。 ⑰ キャリア・パスポートを活用し、生徒の主体的に学びに向かう力を育み自己実現につなぐ	B
	アクティブスクールの推進	⑱ ISベーシックⅠ及びISキャリアスタディⅠからISキャリアスタディⅡ・Ⅲまでの系統的な指導体制を充実させる。 ⑲ アクティブスクールを、PDCAサイクルで見直し、より効果的な指導体制に向けた改善を実施する。	B
	地域とともにある学校づくり	⑳ 文化祭等の学校行事への保護者や地域住民の参加を促し、地域へのボランティア活動や地域行事への参加を行うことにより、本校への理解と評価を高める。 ㉑ 近隣中学校や地域への広報活動を一層充実し、学校の特色及び活動を広く知ってもらうことで学校への評価と信頼を高める。	A
	働き方改革の推進	㉒ 勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める ㉓ 校務のICT化や教材の共有等をさらに進め、業務の効率化を図る。	A
	授業改善による学びの質の向上	㉔ 授業満足度 3.5 (KPI)	A
	多文化共生の推進	㉕ 多国籍生徒に応じた学習支援・学校生活支援を行うことにより、地域社会の担い手を育成する。	A

別紙様式 2 (高)

教科指導		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度（学期）への主な課題
教 科	国 語	密度の濃い授業を展開する。	学習目標に沿う授業計画を立案し授業に臨む。①②	A	A	- 日本語を母語としない生徒に対しての学習指導がやや個々の教員に委ねられている面があるため、必要に応じて教材を用意するなど、より体系的に日本語を母語としない生徒の基礎学力の育成を目指す仕組みを検討していきたい。 - 定期テストの内容を見直し、日本語を母語としない生徒においても、テストの結果をもとに躓きの改善に向けた指導ができるよう工夫していきたい。
			授業実施後は、適宜、生徒の学習内容の定着状況を把握し、授業の改善に努める。①②③	A		
		基礎・基本の学力を養成する。	生徒の実態を踏まえた年間計画を作成・実施し、その中で絶えず指導の工夫・改善を図る。①②③	A		
			学習指導方法や生徒の学習定着状況について、授業担当者間で打合せをし、きめ細かな指導を行う。②③	A		
			自由選択科目等を活用しながら、漢字検定の合格者を増やすために指導を徹底し、合格率を高める。①	A		
		個に応じた指導を行う。	日本語を母語としない生徒に対し、必要に応じて特別な教材で対応するなどして、基礎学力の育成を目指す。①②⑤	B		
			少人数授業やティーム・ティーチング授業を設定し、個に応じた指導を行うことで、全員が分かる授業を展開する。②③①	A		
教 科	地 歴 公 民	基礎・基本の学力養成に力を入れ、指導方法の工夫・改善をする。	科目の目標や指導内容等を明確にした年間計画を作成する。① ②	B	B	日本語レベルが低い外国籍等生徒にとって学習が難しい教科であり、取り出しをしている1年次、普通クラスで授業を実施している2・3年次でそれぞれ課題が生じている。教える内容の精査、取り出し授業の担当教員間の連携や情報共有など、見直しや改善が必要。
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、教材や指導方法を工夫改善する。①	A		
			教員間の情報共有を積極的に実施し、業務の効率化を図る。③	B		
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒の実態に応じて、ICT を活用した探究活動などの授業を実践し、学習意欲の向上を図る。②③⑤	A	A	考查を意識すると知識偏重型の授業になりがちのため、探究活動の授業とのバランスを考える。
	数 学	指導内容や指導方法の工夫をして改善を図る。	生徒の実態に応じて、教材や扱う問題を吟味し、授業展開の工夫・改善を図る。①②	A	A	- ICT機器を活用した授業のさらなる充実を図るとともに、生徒自身が学習能力の向上を実感できる授業を目指す。 - 基本的な計算力を定着させるために、教材や授業展開を工夫し、改善を図る。
			教科書の例題や問題を扱う際には、解答の正誤だけでなく、導くまでの過程を重視して生徒に理解させる。①②	B		
			ICT機器を活用した授業展開を積極的に取り入れて、効率的・効果的な授業を行う。①②	A		
		達成度に応じた魅力ある授業を展開する。	問題集やプリントを活用して様々な種類の問題を生徒に提供し、生徒の達成度に応じた指導を行う。①②	A		
			成績不振者を出さないよう、適宜補習等を行う。①②	B		
		基礎的学習能力を高める。	少人数クラスによる授業を実施する。発展的な内容だけでなく、基礎的な内容を扱う時間を確保する。①	A		

別紙様式2（高）

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度（学期）への主な課題
理 科		指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	学習目標及び学習内容（評価規準等を含め）を共有し、わかる授業を心がけ、基礎学力の定着を目指す。 ①②	A	A	・知識の定着と理解の深化を図るため、講義中心に偏らず、各単元で実験や観察を計画的に位置づける必要がある。 ・視覚的・体験的な印象を残す実験を通して、化学現象を実感を伴って理解させる授業づくりを進めたい。 ・実験結果をICT機器で共有・整理し、考察や対話につなげることで、生徒が主体的に学びを深める学習活動の充実を図ることを課題とする。
			教材の開発や指導法、身近な科学の話題の提供やICT機器の活用を通して生徒の理科に対する興味・関心を高めるよう努力する。 ①②	A		
		個に応じた魅力ある授業展開を目指す。	生徒が自主的に取り組める実験や観察を積極的に展開する。生徒が互いに学びあう主体的・対話的で深い学びの授業を積極的に取り入れる。授業展開や指導法などについて教科内で共有・相談の場を設け、互いの指導技術を高める。 ①②③④⑤	B		
教 育 科	保 健 育	指導内容や指導方法の工夫を図る。	生徒の実態を踏まえ、科目の目標・指導内容等を明確にする。 ②③	A	A	・体育では、生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、さらにICTを有効活用しながら、教材を工夫改善していきたい。 ・外国籍生徒（特に1年次）への対応をさらに工夫する。 ・男女共修の授業を展開するにあたり、施設設備の問題やルールの簡略化など、さまざまな条件を整備しつつ、安全な教育活動ができるようにする。
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、ICTを有効活用しながら、教材を工夫改善する。 ②	B		
			多面的な角度から評価ができるように工夫する。 ②	A		
		本校の教育方針に則った授業展開を工夫する。	自主的な活動を促す授業展開を工夫する。 ②	A		
			体育の授業において、コミュニケーション能力の育成を図る。 ②	A		
			体育の授業において個々に合わせたきめ細やかな支援を行う。 ②	A		
		合理的、計画的な解決に向けて思考・判断力を高める。	授業の振り返りを自己評価カード（個人・グループ）によって行い、次回への目標を明確にする。 ②	B		・授業の振り返りを自己評価カードによって行い、次回への目標を明確にすることをICTを併用しながら工夫改善していきたい。
科	芸 術	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	学びに向かう姿勢を大切に主体的、対話的な授業展開を行う。年間計画に基づき目標を明確にする。 ①②	A	A	・外国籍生徒に幅広く対応できるような指導と評価を工夫改善していく ・芸術経験の差が大きいため、個に応じた指導を実践していき、それぞれの課題に応じた指導改善を行う ・表現の多様化を認めながらも、迎合することなく目標に応じた授業展開を軸として基礎的学習内容と理解力を高める授業展開を行う ・ICTを活用し、生徒にフィードバックできるような授業展開を工夫する ・教科を超えた題材の深め方を工夫する
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、生徒の状況を把握して適切な指導改善を継続する。 ②	B		
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒の実態に応じて、個に応じた指導を行う等授業展開の工夫を図る。 ②③	A		
			多様性に対応し、個に応じた指導の工夫改善を行う。理解力、表現力を高める授業展開を行う。 ②⑤	B		
		自己評価によって学習の軌跡を振り返る。	自己評価カードやワークシート等を活用する。 ②	A		

別紙様式 2 (高)

	外国語	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	科目の目標・指導内容等を明確にした年間計画を作成する。 ①②	A	A	・外国籍生徒の増加に伴い、さらにレベルに合わせた授業改善を行っていく。 ・個に応じた指導を行いつつ、それぞれの実力に合った英検等を積極的に受験させる。 ・今年度後半になり、習熟度に分かれて、個に応じた指導をすることができた。来年度は、それぞれの特徴を生かしつつ、工夫改善できるようにする。 ・基礎的基本的な内容を定着させるために、教材や授業展開を工夫改善するとともに、ICTを活用し、個に応じた指導を充実させる。
			生徒一人一人が基礎的・基本的な内容を身に付けられるよう、ICTを活用しながら教材を工夫改善する。 ①②	A		
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	教科会等を通し、担当者間や教科内で情報交換を行い、研修に努める。 ①③④	B		
			少人数習熟度別クラス編成により、生徒の実態に応じた授業展開を工夫する。 ②③	A		
			長期休業中や放課後等を活用し、学習の遅れがちな生徒や進学希望の生徒、英検・TOEIC等を受験する学習意欲が旺盛な生徒に対し、個に応じた学習指導を行う。 ②③⑤	B		
教科	家庭	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	科目の目標・指導内容等を明確にした年間計画を作成する。 ①②	B	B	・実習科目にけるICT機器の活用について、効果的な方法を考えて実践していく。 ・一斉授業にて、日本語が苦手な外国籍生徒も理解できるように授業展開を工夫する。
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、教材を工夫改善する。 ①②④	A		
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒の実態に応じて、ICT機器の活用など授業展開の工夫を図る。 ②③	B		
			長期休業中や放課後等において、学習の遅れがちな生徒や学習意欲が旺盛な生徒への学習指導等、個に応じた指導を行う。①③	B		
	商業	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	科目の目標・指導内容等を明確にした年間計画を作成する。 ①②	B	B	・生徒が主体的に取り組めるように基礎基本の徹底をはかり、応用力を身につけられるように教材の研究や工夫に努める。 ・クラスルームを活用した課題に努める。 ・検定合格のために、放課後の課外などで個人の生徒にあった指導に努める。
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、教材を工夫改善する。 ①②	B		
			資格取得に力を入れた指導を展開する。 ④	A		
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒の実態に応じて、楽しく分かる授業展開の工夫を図る。 ②③④	B		
			放課後等において、学習の遅れがちな生徒や学習意欲が旺盛な生徒への学習指導等、個に応じた指導を行う。 ②③	B		

別紙様式 2 (高)

項 目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度（学期）への主な課題
教 務		基礎的学力養成を基盤とする教育課程の構築	教科・年次間の連絡調整を密に行い、少人数・習熟度別授業外国籍取り出し授業を無理なく展開させるための校内体制を整える。また、国語・数学・英語における家庭学習課題を IS ベーシックと連動するよう、調整を行う。 ①②③⑩⑬⑱	B	A	- ICTを活用した授業展開の研修機会や授業参観をとおして、さらなる授業力の向上を図る。電子黒板などのICT環境を整え、どの授業でも同等の環境下で授業ができるように努める。 - 保護者・地域の方々を対象とした公開授業を計画し実施する。その際にアンケート等を利用して、意見を聞く機会を設ける。 - 外国籍生徒の支援に関するカリキュラム等、多くの問題を整理し、早めの対応を検討する必要がある
			保護者や地域の方々を対象とした公開授業を実施する。また、保護者アンケート調査を実施し、その結果を活用する。 ①②③⑱⑲	B		
			現在の教育課程における課題点を把握・整理し、教育目標達成に適した教育課程となるよう、継続的に検討を重ねる。 ②③⑫⑬⑱	A		
	学習意欲の向上		授業や家庭学習への取組状況の把握に努める。また、進路指導部と連携し、進路希望に応じた課外等の実施を図る。 ①②③④	B		
			少人数・習熟度別授業・外国籍取り出し授業の実施を継続するとともに、教科を越えて、ICT機器を活用した授業展開の研修や授業を互観する機会、学習意欲を喚起する指導の研修を増やし、授業改善につなげる。 ①②③⑱⑲⑳㉑	A		
	家庭や地域社会との連携		欠席・遅刻防止の指導や生徒の把握に努め、出席状況や学習状況等について保護者との連絡を密にするために、年2回の保護者面談を計画・実施する。 ④⑤⑨	A		
			学校説明会において、本校の特色あるカリキュラムをPRするとともに、体験学習の成果も公開する。 ②③⑳㉑	A		
			本校の教育活動を学校ホームページや各種メディア等をおおして、積極的に発信する。 ③⑬⑲	A		
生 徒 指 導	基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	日常生活のリズムの確保を図る。	HR、授業、登校指導を通しての日常的な生活支援を重視する。 ④⑤	A	A	- 外部からの交通ルール・マナー違反等に関する苦情が多々あった。規範意識を向上させるためにどのような指導、支援が必要か検討が必要である。 - いじめの認知件数が急増している。いじめを見逃さないという点では良いことであるが、いじめが起きない環境、雰囲気作りも必要と考える。 - 授業や面談等を通して、生徒との信頼関係を構築し、保護者の協力を仰ぎ、連携を密にしながら、日々の生活支援の充実に努める。
		服装、頭髪等の改善と生活マナーの向上を図る。	毎日の服装容儀指導、定期的な集会での検査、不合格者の指導を徹底する。 ④⑤⑧⑨	B		
		交通安全、交通ルールの順守、自転車・バイクの安全運転と管理を徹底する。	集会での講話、校外キャンペーン活動、HRでの指導や定期的な自転車点検等の安全検査を実施する。 ⑦⑧⑨	B		
		常に生徒の実態把握に努め、いじめ、問題行動や怠学志向の未然防止を図るとともに素早い対応を行う。	面談や観察及び巡回指導を重視するとともに、情報の共有化を図り、年次間で協調して支援をする。 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	A		
			いじめ防止のために、アンケートを年2回実施するするとともに生徒とのコミュニケーションを緊密にとり、教員間で情報を共有し、未然防止及び早期発見に努める。 ⑥⑦⑧⑨	A		

別紙様式 2 (高)

校内生徒支援体制の充実・強化	クラス内の生徒間の好ましい人間関係づくりに努める。	HR経営の研修や各種アンケートを実施する。 ③⑥⑦⑧	B	B	- SSWの活用により、生徒の抱えている問題を整理し、各関係機関につなげ、問題を早期に解決できるように努める。 - 一部の外国籍生徒のトラブル及び問題行動が急増している現状を踏まえ、どのように規範意識を向上させていくか検討が必要である。 - 外国籍生徒の問題行動について、事実を認識させることが困難な状況があった。今後、保護者の協力を仰ぎながら問題行動に向き合えるよう努力する。
	生徒の自主的活動を育て生活改善に取り組む。	特活行事の工夫、生徒参加の校外キャンペーンの実施（さわやかマナーアップ・交通マナーアップ）、自主的体験活動の実施に努める。 ⑬⑯⑳	A		
	教育相談の校内体制を整備し、機能的な取組に努める。	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の相談体制の周知広報に努めるとともに、相談チームの活性化を図る。 ⑨⑩⑪	B		
	家庭、中学校、警察、地域など校外関係機関との連携強化を図る。	P T A関連行事の活用、家庭訪問や近隣中学校、警察署の訪問等を実施することで、キャンペーンの広報及び協力要請を行う。 ⑱⑳	A		
進路指導	各年次と連携し、系統的・体系的な進路指導を充実させ、生徒の進路希望の実現を図る。	1年次：インターンシップや進路ガイダンスを通し、適切な職業観や進路意識を育成し、2年次の授業選択や将来の進路について考えさせる。 ⑫⑬⑭	B	A	- 各年次をつなぐ系統的・体系的な進路指導の枠組みを確立する。 - 早期の進路志望の確定を目指し、進路ガイダンスや企業見学会等の活動を充実させ、進路意識の充実を図る。 - インターンシップの参加企業の精査を行い、よりよい活動ができるように、生徒支援を充実させる。 - 模擬面接や志望理由書作成などの具体的な活動を充実させ、進路希望の実現を図る。 - 保護者への情報発信や面談等の充実を図り、進路指導を共有する。 - 学びの基礎診断を軸に、日常生活や普段の授業での学力向上や生徒の学習への意識付けを図る。 - 進学内定後に経済面で辞退する生徒が毎年出てしまうため、事前の説明や奨学金について、保護者とも確認し、内定後の辞退を少なくする必要がある。
		2年次：進路別ガイダンスや講話により、生徒個々の進路に関する知識の深まりをめざす。また、模擬面接や履歴書の書き方などの練習を通して、3年次の具体的な進路活動を意識させる。 ⑫⑬⑭	A		
		3年次：二者面談、三者面談を充実させ、進路目標を明確にさせる。また、個に応じた指導やガイダンス、講習会などへの参加を促し、希望進路の実現をめざす。 ⑫⑬⑭	A		
	生徒の進路意識の向上を図り、希望する進路を実現させるため、基礎学力の向上をめざす。	学びの基礎診断を実施することで、生徒の実態を把握し、各教科の授業や特別活動、総合的な探究の時間の活動に反映させ、基礎学力の向上に取り組む。 ⑫⑬⑭	B		
保健厚生	自己の健康保持増進について意識の向上をはかれるように努める。	定期健康診断を実施し、適切な指導を行う。 ④	A	A	- 健康や安全に関する案件について、ひとつひとつ丁寧に取り組み、自分自身の健康と安全を守る生徒の育成を目指したい。 - 外部機関との連携で成立する行事については、綿密な計画と情報共有により、円滑な運営を心がける。 - 生徒全員が自主的に毎日の清掃を徹底できるように指導していきたい。
		性に関する知識と意識を高められるように、性教育講演会を実施する。 ④⑪	A		
	災害の未然防止と発生時の適切な対応力を身につけ、安全への意識を高める。	避難経路を的確に示し、行動する。 ④	A		
		避難訓練を実施する。 ④	B		
	環境美化の意識を向上させる。	基本的生活習慣（ゴミはゴミ箱へ・散らかさない汚さない）を意識付けし、毎日の清掃指導を徹底する。 ④⑧	B		

別紙様式 2 (高)

渉 外	保護者の要望や実態に合わせた P T A 活動の充実を図る。	本部役員を中心に共通理解を深め、会員が協力して円滑で充実した P T A 活動が実施できるように努める。 ⑳㉑	A	A	- 協力的な役員さんが活動を支えている。できるだけ多くの役員さんに関わっていただくことが課題である。 - 役員の選出方法を工夫する - 役員、保護者に負担のない活動の充実を図る - 保護者の要望や実態にあわせた活動の充実を継続して行う - 同窓会活動を円滑に進められるよう連携する。
		本部役員会・評議員会、柏葉祭、各種研修会などの P T A 行事を魅力的なものにする。 ㉑	A		
	広報活動を通じて、保護者の学校理解を深める。	P T A 会報の内容を充実させることで、保護者に積極的に読まれるような紙面作りを行う。 ㉑	A		
	同窓会活動の推進を図る。	同窓会との連携を円滑に進め、活動を充実させる ㉑㉒	B		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度（学期）への主な課題
図 書	読書意欲の向上を図る。	図書委員会活動を活性化させ、主体的に活動させる。学級文庫等を実施し、読書を奨励する。 ①②⑦⑧	B	B	・学級文庫やおすすめ図書紹介などを行い、図書委員会活動の活性化につなげる。 ・購入図書などの広報をすることで、図書の貸し出し数増加を図る。
	図書・資料の充実を図る。	購入希望図書の調査をし、バランスの取れた図書購入をする。①	B		
		購入図書の広報、本の情報を掲示・展示する。 ②⑫	B		
	図書館の利用を促進する。	授業に必要な図書を購入する。 ①②⑫	B		
	図書の整理を進める。	図書の整理（廃棄も含む）を行い、書架を見やすく整理する。 ①②	A		
特別活動	HR・生徒会活動・学校行事を通して、自主的で実践的な人間形成に努める。	行事内容を精選・検討し、生徒が創意工夫を凝らして主体的に活動することを目指す。 ⑮	A	A	・生徒会主体の企画立案運営(例：ゴミ拾い) ・部活動のアピール(ポスター作成・中間発表等) ・目安箱設置(生徒の意見を反映しやすくする) ・スポットで参加するボランティアだけでなく、全体としてボランティアに参加する。 ・本校の実情に合った部活動の指導体制作り。 ・学校行事を狙って欠席する生徒への対応。 ・文化祭時のトラブル防止の工夫。
		生徒会活動を通してあいさつの励行、募金活動、学校美化を図る。 ⑦⑮	A		
	集団意識の高揚を図り、社会性の育成を図る。	あいさつ運動やボランティア活動を通して生徒の自主性や社会性の育成を目指す。 ⑧⑮⑯	A		
		学校行事等での企画、準備・運営においての生徒の積極的な参加を促すとともに、リーダーとなる生徒の育成を図る ⑦⑮⑯	B		
	部活動の活性化を図る。	部活動紹介、部活動見学会等を通して、部活に対する意識の向上を図り活性化につなげる。身体 の健康、安全を守り、安心して活動できるように環境整備を行う。 ⑮	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度（学期）への主な課題
第 1 年次	基礎学力の育成と学ぶ意欲の涵養を図る。	IS ベーシック I での学び直しの授業を通して、中学校における復習を行う。また、英国数等の少人数授業によりきめ細かな学習指導を行い、基礎力を定着させるための素地を作る。 ①②③⑬⑱	B	B	・基礎学力 基礎力診断テストの過回比較 国数英：AB層1→1、C層以上16→23、D3層83→89 国語：AB層18→9、C層以上31→31、D3層58→51 数学：AB層1→9、C層以上36→30、D3層63→75 英語：AB層20→26、C層以上22→25人、D3層43→50 数学・英語における上位層の増加が見られたが、全体を当ててみるとD3層の増加が目立つ。ワンウィークトライアルはきちんとやればD3は取らないので、言われたことをやれる生徒を増やしたい。 ・基本的な生活習慣 遅刻・欠席が増加した。 5分前登校、3分前教室移動の徹底が崩れている。 服装等の乱れも目立っている。 引き続き、時間管理や服装指導については厳しく指導していく。
	基本的生活習慣の確立を目指す。	挨拶の励行と服装容儀指導を全体に徹底させるとともに、手帳を活用することきちんとした生活習慣を身に付けさせ、充実した学校生活を送れるよう個人面談等を通して指導する。 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	C		
	特別活動へ積極的に参加させる。	学校行事への積極的な参加を促し、集団における個人の成長を図る。また、リーダーとなれる生徒を育成することで各ホームルームや学校行事の活性化を目指す。活力ある学校生活を送れるように、部活動への入部を積極的に促す。 ⑮⑯	B		
	進路指導の充実を図る。	キャリアスタディ I や LHR、年次行事等を通して、3年間を見通したキャリア教育の土台作りを行い、地域社会に貢献できる進路指導を目指す。 ⑫⑬⑭⑱	B		
第 2 年次	基礎学力の育成と確実な定着を図る。	英数国における習熟度別少人数授業を通して、確かな基礎学力を身に付けさせる。授業を大切に、集中して取り組む姿勢を育成する。 ①②③⑬⑱	B	B	習熟度授業を実施して、生徒の学力に応じた指導を行ったが、成績向上の効果は継続して検証していく必要がある。 文化祭以降服装容儀に乱れが目立ち、欠席・遅刻・早退も多く、1/7を超える生徒も多かったので最上級生としてモデルのなるように指導する。 文化祭では有志による発表の中心を担うことができた。引き続き学校の中心になれるよう声掛けしていきたい。 キャリアナビを中心に据えながら、語彙力の育成、探究活動、自己の在り方を言語化する活動ができたので継続して指導する。
	基本的な生活習慣を確立させる。	挨拶の励行と服装容儀指導は年次全体で組織的に取り組む。また、日常の声かけや個人面談を指導に活用するとともに、家庭と協力して欠席・遅刻・早退の数を減少させる。 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	B		
	特別活動等に積極的に取り組ませ、集団活動を通して社会性を高めさせる。	文化祭、クラスマッチ、修学旅行等の学校行事への積極的な参加を通して愛校心や思いやりの心を育てる。また、集団行動において一人一人に役割を自覚・実践させることにより、生徒の成長を促す。 ⑦⑧⑮⑯	A		
	キャリア教育の充実を図る。	キャリアスタディ II、総合的な探究の時間、LHRを中心に、自己の在り方生き方について探究・深化させ、生徒の進路希望を考慮したキャリア教育を行う。 ⑨⑫⑬⑭⑰⑱	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次年度（学期）への主な課題
第 3 年次	基礎学力の養成と定着	授業を大切にし、集中して取り組む姿勢を育成する。 教科指導における少人数・習熟度別授業を通して、確かな基礎学力を身に付けさせる。また、「総合的な探究の時間」やLHRも活用し、就職試験(筆記試験)や上級学校入学試験に対応できる学力向上を目指す。 ①②③⑮⑯	A	A	1. 外国籍生徒対応の整理と共有 外国籍生徒については、進路希望や進路決定時期を見据えた対応フローを事前に整理し、進路指導部・年次で共有する体制が必要である。特定の年次に限らず、学校全体の課題として位置付けるべきである。
	基本的生活習慣の確立と生活指導の充実	社会人になることを意識させ、欠席・遅刻・早退が減るように指導するとともに、時間厳守を心がけさせる。 ④⑤⑧ 普段から正しい服装を心がけさせ、服装容儀や頭髪についても日常的に指導する。 ④⑤⑧ 個人面談を繰り返し、生徒の実態に踏まえた指導を行う。 ⑨ 教員間での情報共有を行い、年次全体で生徒指導を行う。 ⑩	B		2. 行事の教育的目的の明確化 学校行事については、育成したい資質・能力を明確にし、生徒・保護者に説明できる形に整理する必要がある。行事内容の見直しや簡素化も含め、教育的効果と費用負担の両面から検討すべきである。
	キャリア教育の充実	教員に対する言葉遣い、校内での所作から来客への会釈(挨拶)に至るまで、社会人として必要な礼儀作法を、日常の学校生活において意識的に指導し、身に付けさせる。 ⑦ ISキャリアスタディⅢや進路行事を通して、進路学習を進めるとともに、社会に出て必要になることを学ばせる。 ⑫⑮⑯ 個人面談を通して生徒一人一人に応じた進路指導を行う。 ⑬ 「総合的な探究の時間」やLHRにおいて、面接指導を十分に行う。また、進路指導室の積極的な利用を推進し、適切な情報収集ができるようにする。 ⑫	A		3. 次年度に向けて 進路指導部が整理した進路業務の枠組みについては、次年度以降も継続的に活用されることを期待したい。業務が年次の裁量に依存しがちな現状を踏まえ、分掌が一定の業務の型を共有し、年次の実情に応じて改善していく運用が望まれる。
	特別活動の積極的参加	クラスマッチや文化祭等の学校行事を通して、生徒一人一人に活躍の場を与え、生徒個人及び他者との関係における成長を促す。 ⑮⑯	A		4. 学校全体への意見・要望 特定の教員の経験や善意に依存する体制から脱却し、業務の構造化・共有化を引き続き推進していただきたい。また、年次や各部で完結している業務についても、教育DX推進委員会を巻き込み、業務効率化や標準化、情報管理・セキュリティ向上の視点を学校全体で共有することが重要である。

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない